

学校職員を人気職にするには

熊本県立宇土高等学校

要旨

熊本県での学校教師の志望倍率が年々減少傾向にあることに不安を感じ、なぜ減少傾向にあるのか、また少しでも自分たちにできることはないのか、ニュースや報道資料を参考にし、先生方へのインタビューや生徒へのアンケートを実施しながら解決策を考えました。

1. 目的

6月8日、熊本の学校教師の倍率が過去最低の1.9倍になったというニュースを見て、なぜそうなったのか、そしてもっと倍率を上げるために私達にできないのか見つけ出して改善の案をだすため

2. 方法

教育関係の研究をしている先生に話を伺う
アンケートを取る
ニュースを調べる

3. 結果

・アンケートの結果

二年生の男女を対象にアンケートをとりました教師になることへのイメージを聞いたところ「きつい、大変そう、残業、ブラック、多忙」などのマイナスの声が殆どで、「子供と一緒に過ごせて楽しそう、ふれあいの場となり、楽しそう」などプラスの声はごくわずかしかありませんでした。また、「今年熊本県の学校教師の倍率が過去最低となりました。なぜだと思いますか。自由に書いてください。」という項目で聞いたところ「時間外労働や保護者への対応、部活の顧問などが大変だから、仕事の量と賃金がないから、テレビで取り上げられているニュースが悪い印象を持つものばかりだから」などのことを考える人が多かったです。

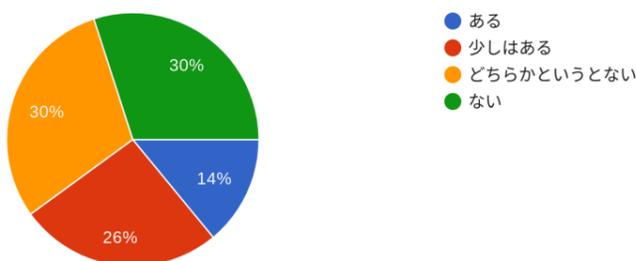
全体的にマイナスな意見が多いです。

「学校教師に興味はありますか」「学校教師になりたいと思いますか」という項目でもアンケートを取りました。(グラフの方を御覧ください)

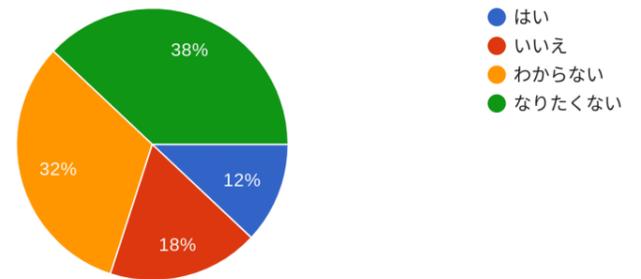
・熊本県全体での取り組み

熊本県教育庁教育総務局学校人事部の「教員不足の解消に向けて」という資料に掲載されているものは、「教員のなり手確保」「学校現場での働き方改革」の2つの項目に重点をおき改善のための取り組みが記されています。

学校教師に興味はありますか
50件の回答



学校教師になりたいと思いますか
50件の回答



4. 考察

宇土高校の先生方や、教育関連を研究されている先生のお話をきかせて頂いて共通する点で今の教師の教育環境を変えることは難しく、労働時間や部活などにさく時間を制限してしまうと困る生徒が多発してしまうと聞き、私達は教員不足解消や人気職にするための提案を考えました。実際に熊本県では「学校教育アシスタント事業」といって教職に関心をもつ大学生が実際に授業などをする取り組みもやっています。私達はこの取り組みを高校生がボランティア感覚で参加して教員に興味をもつ生徒や教員を目指す生徒を増やすことを目的として実施をしてみたいと思います。

5. 感想

研究をこれからもやっていく過程で実施できることは、高校生の私達ができることは数少なく、実施できる範囲も狭まるが教員へのマイナスイメージなどをできるだけプラスなイメージに持っていく方法を模索していこうと思いました。

6. 参考文献

- ・令和5年(2023)7月13日 教育委員会(7月定例会)資料 報告(3)令和五5年度教員不足について
- ・熊本市HP報道資料「大学生学校教育活動アシスタントを募集します」